

第十二回『天罰く闇の仕分け人』と  
あなたはなぜ「原発作業員」ではないのか？

考え



# 新・自虐私観

弦楽器イルカ⇒友人

～第十二回 『天罰～闇の仕分け人～』と「あなたはなぜ原発作業員ではないのか？」～

---

マレーシアの航空機事件は、乗客の命を考えると簡単には語れないだろう。今後どこかで見つかるかもしれない。ただそれは別として、この事件には一つの事実がある。

我々一般庶民には見るどころか想像さえできない何らかの「大きな力」が働けば、飛行機は消える。それが一時的なのか、ずっとかはわからないけど。

つまり俺が言いたいのは、9月11日の話だ。

「イラクでも大量破壊兵器はなかった。真珠湾でも知っててアメリカ国民を見殺しにした説が各国で根強くある。だから9月11日に何があったとしても何ら不思議じゃない」って話はよく目にする。ただ陰謀論にも諸説あって、「ビルに飛行機が突っ込むのを政府は知ってて放置した」って説から、「ビルやペンタゴンは実は爆弾やミサイルで爆破され、飛行機はCGだった」ってネットの検証動画まである。

でも俺には何が事実かは読解できないし、そこは語らない。

ただ、「飛行機がビルに突っ込んでないなら本物は一体どこへ消えたんだ」って逆ツッコミに対しては、「飛行機を消す方法がないワケではない」と答えられる可能性が出てきた。

だからもし仮に、9月11日や3月11日に、裏で糸引く権力者が笑いながらポップコーン片手に観戦してたとしても、それも人間だと俺は思う。世界情勢も人の命も思いのまま、アリの巣を壊すのと何か違いはあるか、と。

権力者は正義や善悪という「縛り」で一般庶民を管理しながら、一方でその枠の外から手を伸ばし一般庶民を雑草のようにむしり取って利用する。使い捨て見殺しにされた多数の兵士にとっては、正義の自衛でも悪の侵略でも「死に方」に大差はない。

だからこそ、そう。「私には、正義など、ない」

いや、ここまでは結局『天誅』の最終話につなげるための前フリなんだけど。

鯉と見まごうばかりに口パクパクさせて「権力者は何でもできんだよ！」って嫌味な悪ノリ具合が半端なかったTo Be Continuedの人、アレ演技指導で絶対「想像の3倍やりすぎてくださいね」って念を押されてるよ。

「半沢」が緊迫感出すためにリアルな銀行を舞台にした分、直接的な暴力とかの無茶は当然なかった。そこを狙って、たかが（されど）テレビドラマだったらむしろ、スカッと直接的な暴力で悪を成敗して「天誅 しちゃってる冬2014」の方がスッキリすんじゃない？とは言っても正義なんて所詮、個人の主観じゃね？ってテーマが垣間見れた。

んで、「半沢」って最後「誰も責任を取らないシステム」に憤る長ゼリフがあって、コレ年金や天下りや原発管理の無責任さに対しても怒ってるドラマだなんて俺は思ったんだけど、『天誅』も最後はやっぱ「権力者の好き勝手にはさせない！」ってオチだったから、これは「半沢」あつての『天誅』なんだと思う。ってことはあの口パクパクは香川をパロディしてるって目も出てきたね。

とはいえ、ここまで熱く語ってもUはどうせ『天誅』なんて観てないだろう。だったらあえて勢いついでに一つ読解しちゃうけど、『天誅』とよくある一般ドラマのリアリティに関する違いについて書いときたい。

普通、過去から現代へタイムスリップするドラマって、その非現実を周りの登場人物が受け入れられるってくだりがあるんだよ。「実は私、過去から来たっぼくて」「えー、マジ！じゃ、過去に帰る方法を探そう」とか。現実では起こらないタイムスリップを登場人物に説明させて、その後の展開を視聴者にわかりやすく解説するのがお約束だ。

でも本当に戦国時代の人知らぬ間にタイムスリップして来たら、みんなワケわからんまま混乱するだけで、帰るも何もあったもんじゃないだろう。そこで『天誅』はどうしたかって言うと、女忍者のタイムスリップを周囲はあんま信じなかったし、結局それはどうでもいって最後まで取り合われなかった。つまり問題をタイムスリップじゃなくて、今この時代をどう生きどう「天誅」するかに絞ってた。このリアリティが実は結構面白かった。

まあとにかく理屈抜きで、最終話が度を越して狙いすぎてたよ。画太郎の『地獄甲子園』並みにサイコーなバカバカしさだってピン子も言ってたよ。

公式HPで役者の皆さんが「もう少しやりたかった」「最高に楽しい現場だった」「続編ないかな」って言うてるけど、視聴率低かったし普通10話のところを第8話でおしまいってやっぱ打ち切りなのかな。（お爺さんのストーカー話の予告編があったのに、実際放送してないと思うし）

でももしこれが打ち切りだったら（普通のドラマなら屈辱かもしれないけど）、『天誅』的にはむしろ勲章だと俺は思うね。

「ついて来たいヤツだけついて来い！」って逆走して、結局誰もついて来ませんでしたってオチだから。「何人たりとも俺の前どころか後ろも走らせねえ！」って視聴者を振り切ったリアル・レジェンドだよ。

ってワケで映画版『天誅』を勝手に妄想する次回予告を唐突にやってみよう。

「天罰～闇の仕分け人～」というドラマが第8話で打ち切りになった。表向きは視聴率の低迷だったが、全体的に視聴率の取れない今クールのドラマの中で、なぜ「天罰」だけが打ち切りになったのか？

「天罰」の主演女優から調査を依頼された「天誅」の面々が探り当てた驚愕の真実とは？ 政府、電力会社、高級官僚、飼い慣らされたマスコミを「天罰」するはずだった幻の最終話シナリオが存在した？ 権力に媚びる上層部の圧力に屈したのか？ 真に天誅されるべき黒幕Xの正体とは？

女忍者、古武術、ピッキング、声色、そしてピン子。「天誅組」の明日はどっちだ！

『天x誅 THE MOVIE ～今宵、お前にX（天誅）を～』

時空を超えた「サナ」と「ゆかり」、二人の女性の運命が今、交錯する。

カミング、スーン！

さて、一通り無駄に「ニセ予告」で盛り上がったところでそろそろ本題へ行きたい。

この前の3月11日に「過去を忘れない」「つながろう」とかってスローガンをたくさんみた。俺としては、提示するなら別の違う言葉があると思った。今回はその言葉に至る過程、この国の文化に対して俺がまだ不十分と思ってる部分を言語化しようと思う。

その3月11日に初めて、福島で甲状腺がん摘出手術した子の、親のインタビューがニュースになった。でも、11日に作業員に関して言及する人はほとんど見なかったし、14日に作業員100人が待遇改善のデモを実施したのも大したニュースになってない。

つまり過去どころか、みんな今を忘れようと必死だってことだ。あの3月11日以降、みんな心の中では被曝者や作業員を殺してる。自分自身が（程度の差こそあれ）被曝者である事実さえ皆殺しだから当然だろう。キレイごとのスローガンでお茶を濁し続けてるケド、そのお茶、とっくに汚染水混じってますよ。極論すれば。

#### ■作業中に亡くなった原発作業員

- 2013年2月27日 50代 心肺停止（死因非公開）
- 2012年8月22日 50代 急性心筋梗塞
- 2012年1月9日 60代 急性心筋梗塞
- 2011年10月6日 50代 後腹膜腫瘍による敗血症性ショック
- 2011年8月30日 40代 急性白血病
- 2011年5月14日 60歳 心筋梗塞（実名報道あり）

#### ■作業中に亡くなった除染作業員

- 2014年1月25日 58歳 運転していたローラー車ごと転落
- 2013年11月19日 46歳 ユニック車の下敷き
- 2013年10月12日 61歳 バックホーが土手から転落
- 2013年5月21日 30歳 クレーン付きトラックにはねられる
- 2013年3月22日 51歳 油圧ショベルカーの走行用ベルトに右足を挟まれる
- 2013年2月28日 54歳
- 2012年1月17日 59歳
- 2011年12月12日 60歳

公的発表されてる分を俺が拾った、前にも載せたまとめだ。漏れがあるかもしれない。とにかくご冥福を祈る。「尊い犠牲」とか口では誰も簡単に言うけど、ほとんど表に出ないまま忘れ去られてる人々だ。他にも吉田元所長が亡くなったり、除染作業員がゴミ箱で不審死したりしてる。

例えば戦争の英霊は神社に祀られてる。吉田元所長の告別の会には総理が出席した。

でも報道では、下請け作業員の葬式には総理どころか電力会社の社員すら来ないそう。電力会社は下請けとは関係ないから。まあ作業員も聖人君子じゃないし、金のために働いてるヤクザやホームレスもいるだろう。他に気になる点として、作業員がデモで脱原発の服を着てたけど、

脱原発に待遇改善を利用してしまおうと広く共感を得られなくなる危惧がある。あと2013年3月から原発作業員の死亡が報道されていない点等、いろいろあるけど、俺が書きたいのは別のことだ。

つまり今、国が掲げるべきスローガンとは何か。

「金持ちはより金持ちに。中流はより下流に。貧乏人や移民外国人はピンハネ低賃金で原発作業員に。差別は暗黙の了解に。利益は自分に。損はできるだけ他人に。そういう国に私たちは住みたい」

コレが今、俺が考えるベストの国是だよ。どっから切っても金太郎飴みたいに、この国の国民はみんなそう思って生きてる。真っ当すぎて、皮肉でも悲観でもない。

キレイごとのスローガンで偽らず、素直に「作業員の葬式なんて行く価値なし」って差別上等を宣言すべきだ。「ジャパニーズオンリー」じゃむしろ広すぎる。「ジャパニーズかつ金持ちかつ原発オンリー」だよ。「日本人でも貧乏人はサッカーなんて観るな。原発作業員としてお国のために働け」って電波がさいたま市から俺には来たよ。

だから真に天誅されるべきXは、政府や電力会社と共に、自分がしたくないことを他人に押し付けている事実さえ気づかない国民一人ひとりなんだと思う。いつか俺の目の前にも、クナイを逆手にサナが睨みながら立つ日が来るんだろう。

そしてもし今、虐げられ差別されている自分を変えたいと誰かが思ったら、逆にその差別を「特権を得る武器」に変えるための言葉を持つしかない。

さて、このスローガンの論拠となる文章を以下に書いた。こっから先は時間あったら読んでね。

「あなたはなぜ原発作業員ではないのか？」

この問いは、2011年3月11日以降この国に暮らす人々にとって避けて通れない命題になった。

隣国に侵略されるより先に、爆発した原発で誰かが作業しなければこの国は自滅する。つまりこの国で人々が平和に暮らすためには、誰かが絶対にその仕事を引き受けなければならない。もし作業員がいなければ、国どころか地球全体に被曝が広がってしまう。しかし誰もが率先してやりたい仕事ではないし、できれば自分や家族にはやらせたくないと思ってる。

「自らの命を削って国防を支えながらピンハネされる原発作業員とは、いったいどこの誰なのか？」

更に最近、移民外国人労働者の大量受け入れを検討する記事が出だした。本来はTPP締結と同時に外国人労働者の規制も緩和される流れだった気がするけど、TPPがこう着状態だから、先に移民受け入れを促進させる必要があったのかと思う。

もちろん、政権与党を支える保守の人たちは少なからず「移民お断り」って考えだから、移民政策を真剣に進めたら支持者も分裂するかもしれない。

でもそれも覚悟の上なんだろう。東北復興の建設業に外国人を充てるって建前はある。ただ最終的には国策失敗で爆発した原発の尻拭いから自国民は逃げて、低賃金の外国人に廃炉の責任を押し付けた場合、この国の人たちはそれでも自分にプライド持って生活するんだろう。今貧乏人

に押し付けてる責任を、外国人になすり替えるだけだ。（ちなみに、泡沫候補が次の都知事選に受かるために、原発作業員になってしばらく働いたら面白いと思う。「私には他の候補者にはない、都政を良くしたい本気の覚悟があります」って演説できるよ）

原発が爆発する前は予想だにできなかった様々な汚染状況に対して、爆発した後は「爆発したんだから仕方ない」「爆発しても実は大したことない」という論調になった。

例えば2014年02月25日、「1歳女児のがんにかかる確率が1.06ポイント上がった」との推計結果が出た。京大教授は「被ばくで確率はわずかに増えたが、健康への影響は小さい」と話している。

これは、爆発前には存在しなかった、事故後始めて出てきた言葉だ。

自分の子どもがガンにかかって喜ぶ親は（なかなか）いない。少しでも確率を下げたい親心に対して、あるいは既に甲状腺がんになった子どもたちの親に対して、「健康への影響は少ない」「被曝による可能性は低い」と主張し続けることで、この国の経済は回ってる。

しかしもうみんな慣れすぎて、これも大したニュースにはならない。たぶん「原発が爆発したんだから、たとえ病気になっても仕方ない」と考えているのだろう。

月収100万円以上という金額を俺がバカみたいに連呼してるのは、それがベラボウに高い金額ではないって意味もある。年収1200万円は俺みたいな一般庶民には夢の数字だが、その倍以上もらってる権力者は多い。

権力者と下請け孫請けの原発作業員、どちらにより多く賃金を払うべきか、その実労働と賃金の間にとんだだけの格差があるか。それを考えることが「この国で暮らす幸せとは何か」に直結していると思ったからだ。

そもそも国民に「もっと株式に投資しよう」とか政府が促してる時点で、「政治で面倒みるのはここまで。後は自己責任で儲けてね。もちろん損失は補填しませんケド」ってぶん投げてるワケだ。

株の仕組みを単純に考えたら、賭けた全員が儲けられる仕組みには当然なってない。誰かから安く買って、それを誰かに高く売る。高く買った人は、その値より高く売らなきゃ儲からない。そしたらチキンレースと一緒に、最後に転落するヤツが損をする。つまり極論すれば、他人に損を押し付けて自分が利益を得られるって仕組みを推奨してる訳だ。

年金、税金、生活保護、雇用、少子化、TPP、金融緩和、放射能、どんな問題にも対極の論説があって、権力者はそこから自分の都合に合った説を選べばいい。成果が上がったら儲けモノ、下がっても「当時の知見ではベストの選択をしたから」責任を取る必要はない。原発事故が良い例だし、それが現在の学問の意義だ。

そこを踏まえた上で政治家や他人に何かを期待するのは勝手だし、自分の利益になるなら好きにすればいい。ただ自分自身が利己主義なのに、総体である国に理想を求めて裏切られても仕方ないと思う。

「金持ちはより金持ちに。中流はより下流に。貧乏人や移民外国人はピンハネ低賃金で原発作業員に。差別は暗黙の了解に。利益は自分に。損はできるだけ他人に。そういう国に私たちは住みたい」

作業員はこれからもピンハネされ続けるし、子どもの甲状腺がんはカウントされ続けるし、それを国民は無視し続けるだろう。

だから自分の身は自分で守るしかない。そしてもし今、虐げられ差別されている自分を変えたいと誰かが思ったら、逆にその差別を「特権を得る武器」に変えるための言葉を持つしかない。

さて、今回はこんな感じ。

どうかな？



考えるウマシカ～第十二回 『天罰～闇の仕分け人～』と「あなたはなぜ原発  
作業員ではないのか？」～

<http://p.booklog.jp/book/83796>

著者：弦楽器イルカ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/gengakkiiruka/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/83796>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/83796>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ